



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ESビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

平成30年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第1回運営委員会

1. 開催日時：平成30年5月8日（火）18：30-21：30
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
名取昭子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
小瀧雅子 同 常務理事
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長
戸田佐和 同 専務理事（陪席）

4. 討議事項

1) 主催者挨拶

昨年度プログラムへのご協力にお礼を述べるとともに、今年度も運営委員会を開催し、実践プログラム（A）を実施していくことへ、感謝を述べた。今年度は、港区高木様のご後任、名取様に新しくご参加いただき、上記のメンバーで運営していく。

昨年、AJALTは設立40周年を迎えた。1979年インドシナ戦争の時に難民となったボートピープルの人々へ日本語教育を行って以来、難民への日本語教育には連続38年の長い歴史がある。この文化庁プログラムでも難民にフォーカスして実施してきた。定住外国人の増加が続く中、文化庁実践プログラムには幾つもの団体が参加している。AJALTとしては2013年度から、主に日本語勉強会と支援者研修、教材作成の三つをセットにしたプログラムで取り組んでいる。この実践プログラム（A）への参加は、今年度が最後となる。難民のみならず、広く生活者のための日本語学習に重きを置き、文化や習慣を含めた生活日本語支援の輪を広げていきたいと思っている。

2) 本年度事業について

●実施計画の説明

- ・取組1「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業」（全40回 計80時間）
平成30年5月10日～平成31年2月28日（除：8/16、12/27、1/3）
毎週木曜日 18：30～20：30

於：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺

- ・取組2「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修」実践研修（全10回 計30時間）
平成30年12月6日～平成31年2月21日（除：12/27、1/3）
毎週木曜日 17:30～20:30
於：公益社団法人 国際日本語普及協会
- ・取組3「日本語学習用教材作成事業」（取組1使用教材、34回分）

全国の支援者に役立つような教材を作成、各年の内容を変える工夫している。

提出教材のイラストは著作権フリーのもののみを使用している。教材は文化庁のホームページにアップされ、誰でもダウンロードできるようになっているので、活用してほしい。ただし、昨年度は教材の公開はなかった。

*今までの作成教材（2013年度、2016年度、2017年度のもの）を回覧した。

●支援体制について

- ・レベル別に3クラスの編成が可能な体制を作り、毎回講師2名にサブ講師1名が担当する。
中級クラス：日本語でコミュニケーションがある程度とれる人
初級クラス：ほとんど日本語でコミュニケーションが取れない人
入門クラス：ゼロレベルのこれから日本語学習を始める人

●内容について

- ・中級クラスは、日常の話題からニュースまで様々なテーマを取り入れる。昨年度は、歴史、地理、冠婚葬祭などから取りあげ、学習者も興味を持って取り組んだ。最後の発表会では正月にテレビで見たという歌会初めに感銘を受けて自作の短歌を披露した学習者もいた。今年度の初めのテーマは「環境」で、温暖化やエネルギー、もったいない、といった話題を扱う予定である。読み書きでは、ある程度理解している漢字レベルをより深めていくようにする。
- ・初級クラスは、毎日の生活、買い物、病気など生活に密着した話題で、文化庁が奨める「生活日本語」のテーマに沿ったものを扱う。読み書きには、生活漢字の学習を取り入れる。
- ・入門クラスは、平仮名、片仮名の文字指導を中心に物の名前や簡単な日常会話などを扱う。昨年度は、コース半ばから入門クラスのレベルが上がり、初級クラスと合同となった。
- ・日本語のレベルに関係なく、学習者の知的レベルは高いため、知的好奇心を満足させるものを扱うようにする。

●参加者について

昨年度の在籍人数は延べ20人だったが、出席者は毎回平均5～7名であった。常時10名位が理想である。国籍はミャンマーが中心となるが、昨年度同様、ベトナムやその他の地域からも幅広く受け入れたい。年齢層は、上は60代から下は20代までだった。RHQ（アジア福祉教育財団難民事業本部）の日本語コース修了生も参加している。

3) 参加者募集について

昨年度の学習者から 6 名ほどは継続予定である。現在チラシを配布し広報に努めている。ミャンマー関係への広報は、高田馬場付近のレストラン、病院、アルーシャネイルサロンまた支援団体に配っている。Facebook にも公開し、アルーシャの岩瀬氏にはアップのご協力をいただいた。ミャンマーコミュニティは Facebook の利用者が多い。学習者に牧師さんもあり、教会関係者や、ベトナムの学習者関係への広報もしたい。

4) 質疑応答、意見交換

1. 教材を見ると先祖供養など難しそうだが、テーマはどのように決めるのか

⇒毎回のテーマ決めは苦労するが、月に一度講師で話し合っていて決めている。文化習慣やニュースなどを題材に、周囲とのコミュニケーションに繋がるテーマを工夫している。

⇒土葬、火葬、散骨、戒名などお葬式の仕方は各国で様々あり、話題は広がりそうだ。

日本で冠婚葬祭に呼ばれることもあり、そのようなときには役立つことになるだろう。

2. 日本語教室には 18 才以下の人は参加できるのか

⇒大人と一緒に学習で良ければ参加できる。

⇒港区国際交流協会では、両親が連れてくる 15 歳の子供を受け入れている。

3. 途中参加も可能か。

⇒随時、参加を受け入れている。

4. 難民認定前でも受け入れるのか

⇒認定前でも受け入れる。申請中の人の受け入れには力を入れたい。

⇒昨年、認定前のパレスチナ人の方が一度参加した。彼は今年度難民認定されて、RHQ に参加する。

5. RHQ との違いは何か

⇒RHQ は認定後の受け入れだが、こちらは認定前の方でも受け入れる

⇒RHQ は集中的に毎日授業を行い、全 525 時間のコースである。基本的に生活者としての日本語を扱うコンセプトは同じである。

⇒Facebook などで情報をシェアしても、難民の方の顔は出さないほうが良い。自国に家族が残っている人に迷惑がかかる恐れがある。

6. 参加者の交通費負担についてはどうしているか

⇒交通費は各自の負担である。補助できればよいが、文化庁の予算ではつかない。教材もコピーを渡してはいけないことになっている。自立を促すといふと思う。

5) 次回運営委員会について

次回は支援者研修が始まる 10 月下旬ごろに実施を予定している。改めて運営委員会へのご協力に感謝するとともに、日本語勉強会の広報のご協力もお願いした。

* <個人情報の取り扱いに関する依頼書>口座振り込み個人情報承諾書にご記入いただいた。

以上



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ESビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

平成30年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第2回運営委員会

1. 開催日時：平成30年11月12日（月）18：30-21：30
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
名取昭子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
戸田佐和 同 専務理事
小瀧雅子 同 常務理事（陪席）
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長

4. 討議事項

1) 主催者挨拶

初めに理事長関口よりご挨拶並びにこれまでのご協力のお礼を申し上げた。今年度で文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）への参加が3年目で最後となること、また今後は実践プログラム（B）としての実施を予定している旨を説明した。

2) 本年度事業について

①取組1・3実施状況

取組1「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業」（全40回 計80時間）

平成30年5月10日～平成31年2月28日（除：8/16、12/27、1/3）

毎週木曜日 18：30～20：30

於：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺

○日本語教室の状況

- ・今年度の学習者は、申し込み数16名（内3名は帰国などで未参加）、内訳は、安定して参加している学習者7～9名程、ほか不定期に参加する学習者などである。昨年度以前からの継続参加者であるミャンマー、ベトナムの方に、今年度からの新しくミャンマー、エチオピアからの学習者が加わり、和やかな雰囲気で行っている。難民申請中の方は教室見学に来てから体調を崩している。
- ・現在3クラス体制で進めている。安定した人数は、初級①1名、初級②2名、中級6名、

更に新しいゼロ初級の学習者が加わった場合は、随時編成をし直す体制を作っている。初級①と②は、文字の進度で分けているが、それほど差はない。

- ・講師は、初級②と中級クラスを、一人ずつメインの講師が担当し、その日の学習者の出席状況により、補助講師が初級①を担当、又は必要な補助に入っている。

○各クラスの学習状況

＊資料：生活日本語勉強会プログラム案

- ・現在 27 回目のクラスを実施するところである。内容は、初めに全体活動として、日付、歌やプロソディーを行ってから、各クラスに分かれて、前半に文字学習、後半にトピック学習を行っている。

<中級クラス>

- ・前年度以前から継続している学習者が多い。日本語や日本事情への関心が高く、理解も進んでいる。扱う内容は、前年度までの内容と重複しないよう、新しい話題を工夫している。これまでに扱った内容は、環境問題（ごみ・分別、リサイクル、温暖化など）、食や生活の安全、社会事情として最近のニュースの話題から「海洋汚染」「地震」「SNS」「豪雨・災害」「熱中症・食中毒」「バーチャルリアリティ」「日本で働く」など様々なトピック、また、シリーズとして、自分の国について話すトピックを5回行った（季節、行事、植物、動物、料理）。また、紹介したい人・もの・所について、各2回ずつ取りあげて、書く時間を設けるようにした。トピックについては意見を発表しあっている。
- ・漢字については、昨年度は、教材の中から適宜取り上げていたが、今年度は、学習者の要望も大きいことから、N4 の漢字をリストアップした教材を続けて、読み方、語彙の強化、例文作りに熱心に取り組んでいる。

<初級クラス>

- ・文化庁のカリキュラムに沿った内容で、一日の生活、買い物、病気といった日常生活のトピックから語彙、表現を学び、会話練習をしている。教材は文化庁学習教材「にほんごえてん」（AJALT 企画制作）を使用。
- ・文字学習は、ひらがな、カタカナの復習と並行しながら、漢字学習も少しずつ進めている。

<戸外学習>

8月2日に築地本願寺納涼盆踊りに参加した。日本を代表する寺院での大規模な盆踊りの会場に興奮し、蒸せ返る暑さの中、盆踊りや屋台の食事を楽しんだ。

11月29日には「日本庭園と紅葉狩り」と題して肥後細川庭園で行う予定である。戸外学習に向けて、合同活動では「もみじ」を練習し、秋の情緒を感じている。

<学習発表会>

最終日の2月28日（木）に開催する。運営委員の皆さまにもぜひご覧いただきたく、またご案内したい。例年取り組み2の支援者研修に参加した受講生にとっても、その成果を見届けるよい機会となっている。

取組3 「日本語学習用教材作成事業」(取組1 使用教材)

- 中級の教材を文化庁への提出教材としている。構成は、トピックについて、聞く、話す、読む、書く 4 技能で理解が深まるように工夫し、本文、読解 QA、表現や文法の練習、クイズ、作文など取り混ぜたものになっている。
- 今期は文字学習に独立した時間をもうけ、以前作成していた漢字教材にのっとり、音訓読み、熟語、例文を扱った教材を作成している。
- 初級クラスには、「にほんごえじてん」や以前作成した教材を活用している。

②取組2実施計画

取組2 「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修」(全10回 計30時間)

平成30年12月6日～平成31年2月21日(除: 12/27、1/3)

毎週木曜日 17:30～20:30

於: 公益社団法人 国際日本語普及協会

- 受講者の人数は学習者数と同じ位を考え、定員15名と設定している。
- 難民支援や地域の日本語教育等に関わる団体や個人、メーリングリスト、またミャンマー語の教室などに募集を知らせている。現在難民支援に興味のある方から3名の申込みがある。今後も広報を進めていきたい。

★参加者募集について

運営委員の皆さまにも、支援者研修の広報にご協力していただきたく、お願いした。

チラシをデータでもお送りし、また案内文もお知らせするように手配することとした。

3) 質疑応答、意見交換

①学習する漢字はどのように選んでいるのか。

- 初級者には、初めに数字、曜日、生活漢字でよく使う漢字からリストアップし、N5の範囲を学べるようにしている。
- 中級者には、N4の漢字、また生活に必要な漢字から、関連性のある漢字をまとめて各回3つずつ学べるように工夫している。N4の範囲はカバーしている。
- *N4の漢字を学習すれば、だいたい生活で困らないようになるようだ。(岩瀬氏)

②教材にある気象警報、災害用語など難しそうに思えるが。

- 中級学習者は日頃ニュースなどを目にして社会の話題に関心があり、用語にも抵抗はなく、むしろ知りたがる傾向もある。教室では分かりやすく示しながら進めているが、自分で辞書を引いて確認したり、分かる者が母国語で説明したりもしている。
- バーチャリアリティは、言葉は知らなかったが、訓練や障害者、お年寄りなどにも役立つことや、東京消防庁の災害体験車にも関心を示していた。

*消防庁災害体験車は今年6月から始まったもので、港区でも体験を実施した。(名取氏)

③日本語教室、支援者研修に修了証は発行しないのか。

- ・日本語教室では、皆勤賞、休みが少なかった学習者に精勤賞として、最後に賞状と粗品（500 円位の文具）を授与している。
- ・支援者研修会では、今まで特に修了証を発行していないが、今回ご意見を頂き、検討するとういことと思う。

*港区の日本語教室では、8 割の出席で修了書を発行し、励みになっている。（小門氏）

④日本語教室、支援者研修に最低必要な人数は何人か。

- ・募集案内を参照して確認する。両取り組みのバランスとしては、支援者の実践研修時に、出席の学習者とのバランスが悪くならないとよいと思っている。（1 対 1 の実習ができるとうい。）

*平成 30 年度募集案内に‘原則として日本語学習者が 10 名以上であること、取組毎に応募者が 5 名を下回らないように注意すること’との記述あり。

⑤支援者研修受講者は修了後どのように支援活動に関わっているか。

- ・もともと NPO や日本語学校、地域の日本語教室など様々な場で活動している参加者が多く、修了後も活動を続けていると思われる。最後のアンケートでも、支援活動を希望する人が大半であった。また民間のシンクタンクの方は来日外国人のリサーチで活躍している。近隣の会社勤務の女性は、今年度日本語教室に都合が良い時にお手伝いに来てくれている。今年度支援者研修のご案内を、昨年度と一昨年度の受講者にお送りして周囲の方への広報をお願いした。

⑥文化庁実践プログラム（A）は今年度が最後ということだが、来年度はどうするか。

- ・実践プログラム（B）を申請したいと思っている。日本語教室は引き続き来年度も継続して開いて行きたい。会場は光明寺新館を使わせていただけるようお願いしたい。

*来年度光明寺では、納骨堂の改装を考えている。工事中のお骨の保管場所をどうするか、これから検討する。（石上氏）

4) 次回運営委員会について

3 月に運営委員会を開く予定である。今年度全体のプログラムの結果をご報告し、運営委員の皆さまに本年度の実施内容につきご検証いただく。その後、書類を作成、3 月中旬に文化庁に提出する予定である。時期が近づいたらお知らせをさせていただく。

以上



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ESビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

平成 30 年度文化庁地域日本語教育実践プログラム (A)

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第3回運営委員会

1. 開催日時：平成31年3月15日（金）18：30-21：30
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
小瀧雅子 同 常務理事
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長
欠席者：石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
名取昭子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事

4. 討議事項

1) 「日本語学習支援事業」(取組1)実施報告

- ・開催日時：5月10日～年2月28日（木曜日 18：30-20：30）全40回
- ・開催場所：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 新館
- ・参加者：15名（ミャンマー11名、ベトナム1名、エチオピア1名、イエメン2名）
- ・実施内容：別紙参照
本年度実施40回のスケジュール表を参照しながら概要を説明した。また教材資料や報告書も併せて回覧した。

○学習者について

- ・安定的な人数で実施できた。（常時6名～10名）
- ・継続して参加している学習者が多く、熱心に学習した。本年度から参加のエチオピア男性は事情があるとき以外は積極的に参加、また途中参加のミャンマーの女性2名も休まず参加し、皆と打ち解けて最後まで楽しく通うことができた。一方来日間もなかったイエメンの方は健康上の理由もあり初めの内のみの参加だった。また昨年度から継続していたベトナムの学生は中途よりビザの問題もあり不参加となった。
- ・最後の学習発表会で、皆勤賞2名、精勤賞4名に賞状と賞品を授与した。

○クラス編成

- ・3クラスに分かれて講師が一名ずつ担当した。
 - ① 話せる人のための中級 ② ひらがな学習が終了している初級1
 - ② ひらがな学習から始める初級2

- ・中級クラスは継続者が多いため、レベルの高い内容を扱った。初級1クラスはややレベル差があったが、助け合いながら協同学習した。初級2クラス学習者は、会話に慣れていたが、文字学習をひらがなから行った。分かれて学習することによって、きめ細かな指導ができた。

○学習内容

トピック学習

- ・テーマは毎月一回の講師連絡会で討議して決定し、特に中級者には前年度と重ならない内容を考えた。前半では、ごみ、リサイクルなどの環境問題、最近のニュースから、スマホの使い方や防犯、食の問題など知っていてほしいことを中心に扱った。後半は、自国と日本を比較したり、自分の紹介したいことを話したりする回を増やし、学習者が自分で考え、話す機会を多くした。また俳句や短歌、川柳を扱って、日本の文化や心を学んだ。
- ・初級者は、前半では基本的な日本語の構造を学びながら、一日の生活について自ら文を組み立て話せることを目標とした。後半は、季節の話題や、防災や病気、街の中など、繰り返し学習することで語彙を増やし、生活日本語が少しずつ身につくように考えた。最後には自分が紹介したいことを表現することを目指した。

文字学習

- ・学習意欲が高く、どのクラスも時間をとって学習した。
- ・中級クラスは、前年度からの続きでN4の漢字を毎回3つ取り上げ、読み方、熟語、文作作りを行い、N4の範囲は一通り終了した。
初級1クラスは、ひらがな、カタカナ終了後、漢字をN5の範囲から少しずつ学習した。
ひらがなの読み書きは自信がついてきたが、カタカナはまだマスターはしていない。
初級2クラスは、ひらがなを初めから学習し、繰り返し復習してからカタカナ学習を行った。

歌・プロソディー

- ・毎回合同で行い、教室での連帯感を深めた。

戸外学習

- ・2回実施した。8月に築地本願寺の盆踊り、11月に細川庭園ライトアップ見学を行った。
学習者、講師と共に日本の行事を味わい、文化に触れる楽しい行事となっている。

学習発表会

- ・最終回にスピーチと群読「ひとつの言葉」、歌「ビリーブ」を披露した。人の前で発表する機会は学習者一人ひとりにとって励みとなっている。
- ・支援者・招待客の感想から：
皆一生懸命で、発表に工夫があり、素晴らしかった。
スピーチをしているときの生き生きとした表情が印象的で感動した。
国の文化が分かって楽しかった。
- ・発表会後に懇親会を開き、学習者手作りのエチオピア料理を頂いたり、参加者同士の交流に話が弾んだ。後日、料理のレシピを本に掲載したい、という方も現れたほど美味であった。

○質疑応答

- ① ニュースにスマホとあるが、どのような内容か

- ・ガラ携帯とスマホの違い、既読スルーしたら人間関係が悪くなった、紛失すると個人情報が出れる、などの話題。炎上など面白い語彙や表現があるが、本来の意味も伝える必要がある。
- ・学習者も携帯の辞書機能をよく使っている。ミャンマー語でも使っている。

② 学習者で日本語能力試験を受ける人はいるか。

- ・N2 受験者が複数いたが、難しかったようだ。教室ではそのための勉強は特にしていない。「みんなの日本語」のテキストを自習し、教室で講師にチェックしてもらう学習者もいた。
- ・N2 レベルは難しいが、持っていると言っていると仕事を得やすくなる。

③ 難民の人で国に帰ることはあるのか。

- ・ミャンマーに一時帰国をした人がいる。また、難民認定の人ではないが、継続 5 年目の学習者が一人ミャンマーに帰国した。
- ・ミャンマーでは少しずつ国に帰れる状況になってきているのかもしれない。

○アンケート結果報告（8 名回収）

以下の通り質問への回答を得た。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| （1）日本語が上手になったか | ①はい：4 名 ②まあまあ：4 名 |
| （2）日本で生活が前よりできるようになったか | ①はい：5 名 ②少し：3 名 |
| （3）この教室の内容に満足しているか | ①はい：7 名 ②まあまあ：1 名 |
| （4）もっと日本語を勉強したいと思うか | ①はい：8 名 |
| （5）続けて勉強したいこと：カタカナ 漢字 文法 | |

- ・読み書き文法は自然に学べず、学習する必要がある。このような希望があるのは当然である。

2) 「支援者研修」(取組2) 実施報告

- ・開催日時：12月7日～2月22日（木曜日 17：30-20：30）全10回
- ・参加者：13名
- ・実施内容：別紙参照

別紙（10回分スケジュール表）を参照しながら、学習内容の概略を説明した。

○講座の概要

- ・基礎研修 1 回～7 回について

初回のテーマは「日本語支援の第 1 歩—学習者を知ろう、日本に暮らす難民」である。難民についての基礎知識を学ぶと同時に、難民ハウ・ルンさんを講師に迎え、体験談を聞き、参加者からの質問に答えた。ハウ・ルンさんはミャンマー難民認定者で RHQ 修了生、現在はユニクロで働き、活躍している。2 回～7 回では、日本語支援をするにあたって基礎知識である、日本語の音声・表記、基本的な文法知識、わかりやすい日本語、行動体験型の教室活動「標準的カリキュラム案」の活用についてを学習した。

- ・実践研修 8 回～10 回について

行動体験型の教室活動「標準的カリキュラム案」の実践として「SHOW&TELL」の手法などを学んだ。また、主に学習者と一対一の体制で、学習発表会に向けて学習者が行うスピーチの内容を引き出し、原稿作成、発表練習までの一連の学習過程に寄り添いながら

実際に支援をする実習を行った。

○受講者について

- ・地域の教室で支援活動している方、これから始めたい方、大学で教員養成課程をとっている学生、大学の日本語ゼミに在籍して研究している方、マナー講座を開催している方など、女性の参加が多かった。毎回和気藹々とした雰囲気ですぐに進み、最後の実習まで休みも少なかった。初回のみ参加の方が4名いた。

○アンケート結果（8名回収）

以下の通り質問への回答を得た。

（1）「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったか

①はい：5名 ②まあまあ：3名

（2）今後、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいか

①はい：7名 ②できれば：1名

（3）コメントから：

- ・難民当事者の方の体験を聞くことができたのは貴重な機会だった。
- ・日本語を教えるということは、テキストに沿って教えることより、その人が必要とする日本語から教えることがとても大事であることを知った。言葉は生きているものであると強く感じた。
- ・講座での説明はとても分かりやすく、よく理解できた。
- ・内容が実践的でよかった。また実習という形で、現場で支援を行い、振り返るというサイクルは大変勉強になった。
- ・教材の作り方などヒントやアイデアをいただいた。
- ・これからもこのような講座に参加したい。また、今後の活動に生かしたい。

3）「日本語教育のための学習教材作成事業」（取組3）実施報告

- ・テーマに沿って、40回分作成した教材を回覧した。

4）本年度事業の評価

- ・アンケートの結果から、学習者及び研修受講者より、概ねよい評価をいただいたと思う。

5）来年度事業について

- ・文化庁「地域日本語教育実践プログラム」への取り組みは今年度で最後になる。運営委員の皆様には、今まで3回の運営委員会にご出席いただき、貴重なご意見をいただけたことに、心より感謝している。
- ・来年度は、文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」難民等に対する日本語教師研修に応募している。採択の結果はこれからである。
- ・学習者にとって日本語学習は継続が大切である。来年度も引き続き、光明寺を会場に使わせていただいて、日本語教室を継続的に続けていきたいと思っている。今後も引き続きご支援頂けるよう努めて参りたい。

以上

「生活日本語」勉強会のお知らせ



この講座は、主に難民やその家族の方を対象とした定住者のための勉強会です。
日本の社会で生活していくために必要な日本語と一緒に勉強しませんか。学校などに通って
日本語を勉強するチャンスのない方で、18才以上の方ならだれでも参加できます。

【日時】 2018年5月10日～2019年2月28日、毎週木曜日、18:30～20:30

全40日80時間（8月16日、12月27日、1月3日はお休み）

＊できるだけすべての回にご参加ください。

【場所】 光明寺（下記の会場地図参照）

東京都港区虎ノ門3-25-1

【参加費】 無料（会場までの交通費は、ご自身でご負担ください）

【申込み】 下記の申込みフォームにご記入の上、FAX でお申込みください。

FAX: 03-3459-9660（2018年5月1日まで、先着20名様まで）

【内容】 生活に必要な日本語（例：交通、買い物、仕事の日本語）

コミュニケーションに必要な日本語（例：身近な人、地域の人と話す）

自己表現のための日本語（例：街へでかけよう、自己紹介）など

【申込みフォーム】

【会場】

名前 _____ 年齢 _____ 才

東京メロ 日比谷線 神谷町駅(3番出口)から1分

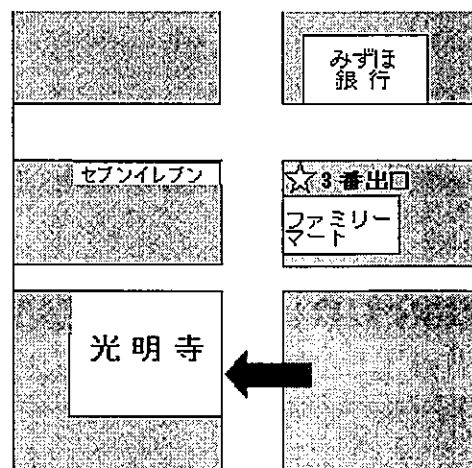
名前(ローマ字) _____

国籍 _____ 性別 _____ 男 / 女

住所 _____

電話 _____

メールアドレス _____



Learn "Everyday Japanese"

**Free study sessions for residents focusing on refugees
and their families**



Would you like to get together and study Japanese that you can use in your day-to-day life? Attend our study sessions, which are offered for free! If you are 18 or older and cannot go to school, this is the chance for you to learn.

【Dates】 May 10, 2018 to Feb. 28, 2019 (Thursdays from 18:30 to 20:30) for a total of 80 hours over 40 days (no sessions on Aug.16, Dec.27, Jan. 3)

*Please try to attend all sessions.

【Location】 Komyo-ji Temple (see the map below)

Toranomon 3-25-1, Minato-ku, Tokyo

【Fees】 FREE! (Students are only responsible for their own transportation costs)

【How to sign up】 Fill in the form below and FAX to :03-3459-9660

(Up to 20 students on a first-come basis. Sign-up deadline is May1.)

【What You Will Learn】 Everyday Japanese that you can use immediately in your day-to-day life (e.g. transportation, shopping, work, etc.) for communicating with people around you. You will also learn how to talk about yourself (where you are from, what you like to do, etc.) in Japanese.

【Application form】

Name _____ Age _____

Name(alphabet) _____

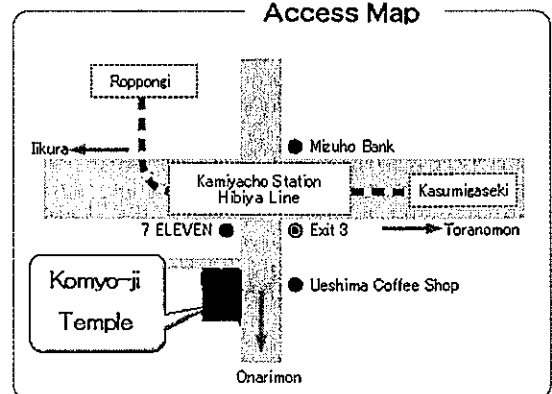
Nationality _____ Sex Male/Female

Address _____

Phone _____

email _____

Access Map



1 minute walk from the Kamiya-cho Station (Exit 3)
on the Tokyo Metro Hibiya Line

「နေထိုင်မှုအတွက်လိုအပ်သောဂျပန်စာ」 သင်တန်းအကြောင်းကြားစာ

ဂျပန်နိုင်ငံ၏လူ့ဘောင်အဖွဲ့ အစည်းတွင်နေထိုင်ရန်အတွက်လိုအပ်သောဂျပန်ဘာသာစကားကိုအတူတူမသင်ချင်ဘူးလား။ ဂျပန်ဘာသာစကားသင်တန်းကျောင်းတွင်တက်ရောက်သင်ကြားရန်အခွင့်အရေးမရှိသူ၊ အသက် ၁၈ နှစ်နှင့်အထက်မည်သူမဆိုတက်ရောက်နိုင်သည်။

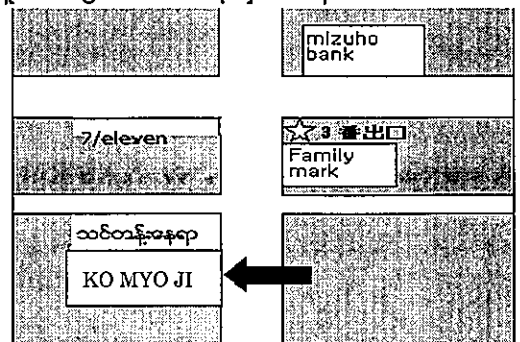
သင်တန်းကာလ ၂၀၁၈ ခုနှစ် ၅ လ ၁၀ ရက် မှ ၂၀၁၉ ခုနှစ် ၂ လ ၂၈ ရက်
 သင်တန်းချိန် အပတ်စဉ် ကြာသပတေးနေ့ ၁၈ နာရီ ၃၀ မိနစ် မှ ၂၀ နာရီ ၃၀ မိနစ်
 စုစုပေါင်း ၄၀ ရက် နှင့် အချိန်ပေါင်း ၈၀ နာရီ
 (၈ လ ၁၆ ရက် ၊ ၁၂ လ ၂၇ ရက် ၊ ၁ လ ၃ ရက် ပိတ်ပါမည်)
 တက်နိုင်သလောက်သင်တန်းချိန်အားလုံးတက်ရောက်သင်ကြားရန်
 နေရာ KOUMYOUJI (အောက်တွင်မြေပုံဖော်ထားသည်)
 TOKYO MINATOKU TORANOMON 3-25-1
 သင်တန်းကြေး အခမဲ့ (လမ်းစရိတ်တာဝန်မယူပါ)
 လျှောက်ထားရန် အောက်တွင်ပါရှိသောလျှောက်လွှာဖြည့်ပြီးဖက်စ်ဖြင့်ပို့ ပေးရန်
 ဖက်စ်နံပါတ် ၀၃-၃၄၅၉-၉၆၆၆ (၂၀၁၈ ခုနှစ် ၅ လ ၁ ရက် နောက်ဆုံး၊ ၂၀ ဦးသာလက်ခံမည်)
 အကြောင်းအရာ နေထိုင်ရန်အတွက်လိုအပ်သောဂျပန်စာ
 (ဥပမာ လမ်းပန်းဆက်သွယ်ရေး၊ ဈေးဝယ်၊ လုပ်ငန်းခွင်သုံးဂျပန်စာ)
 လူမှုဆက်ဆံရေးတွင်လိုအပ်သောဂျပန်စကား
 (ဥပမာ အနီးအနားရှိလူအိမ်နီးနားခြင်းတို့ နှင့်စကားပြောခြင်း)
 မိမိခံစားချက်ကိုထင်မြင်ချက်ပြောဆိုရာတွင်အသုံးရန်လိုအပ်သောဂျပန်စာ

【လျှောက်လွှာပုံစံ】

အမည် _____
 အသက် _____ နှစ်
 နိုင်ငံသား _____
 လိင်အမျိုးအစား အမျိုးသား/အမျိုးသမီး
 နေရပ်လိပ်စာ _____
 ဖုန်းနံပါတ် _____
 မေးလ်လိပ်စာ _____

【နေရာ】

Tokyo Metro Hibiya Line Kamiyacho
 ဘူတာထွက်ပေါက် ၃ မှ ၁ မိနစ်



じかい せいかつにほんご べんきょうかい
次回の「生活日本語」勉強会をよりよいものにするために、アンケートにご協力ください。

いただいた回答は、上記の目的以外のために使うことはありません。

なまえ
お名前 _____

おとこ おんな
男 ・ 女

ねんれい さい
年齢 _____ 歳

れんらくさき
ご連絡先 _____

E メールアドレス／電話 _____

1. この教室で勉強して、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか。 1つ選んでチェック(☑)してください。

☐ じょうず べんきょう 上手になったと思う ☐ まあまあ じょうず 上手になったと思う ☐ か 変わらない ☐ じょうず 上手になっていないと思う

2. この教室で勉強する前とくらべて、日本での生活ができるようになったと思いますか。1つチェック(☑)してください。

☐ できるようになったと思う ☐ すこ 少しでもできるようになったと思う ☐ か 変わらない ☐ できるようになっていない

3. この教室の勉強会の内容に満足していますか。1つチェック(☑)してください。

☐ まんぞく 満足している ☐ まあまあ まんぞく 満足している ☐ あまり まんぞく 満足していない ☐ まんぞく 満足していない

4. もっと日本語を勉強したいと思いますか。1つチェック(☑)してください。

☐ おも 思う ☐ おも 思わない

5. この教室の勉強会に関してコメントを記入してください。(勉強になったこと、次回勉強したいこと)。

きょうりやく
ご協力ありがとうございました。

地域在住外国人に対する 日本語支援 研修会 受講生を募集します！



地域に住む生活者としての外国人への日本語支援に興味のある方、日本語教育について考えてみたい方、生活やコミュニケーションに必要な日本語支援の勉強会に参加しませんか。日本語支援に全く関わったことがなくても大丈夫です。支援の基礎から学びます。実践研修では、併設の「難民を中心とする外国人のための日本語教室」で実際に外国の方の支援にあたりながら、現場を体験します。

【日 時】 平成30年12月6、13、20日

平成31年1月10、17、24、31日、2月7、14、21日（全10回）

各 木曜日 17:30～20:30（1回3時間 全30時間）

【場 所】 公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT) 東京メトロ日比谷線 神谷町駅 (3番出口徒歩1分)

【参加費】 無料 定員：15名 申し込み締切：11月 末日

【講 師】 公益社団法人 国際日本語普及協会(AJALT)所属教師

【カリキュラム】(予定)

1回	12/6(木)	基礎1 日本語支援への第一歩 -学習者を知ろう 日本に暮らす難民の話を聞く-
2回	12/13(木)	基礎2 日本語ってどんなことば-形(文法)① 概観
3回	12/20(木)	基礎3 日本語ってどんなことば-音、文字
4回	1/10(木)	基礎4 日本語ってどんなことば-形(文法)② 名詞文/形容詞文
5回	1/17(木)	基礎5 日本語ってどんなことば-形(文法)③ 動詞文
6回	1/24(木)	基礎6 わかりやすく話そう-相手に伝わる話し方
7回	1/31(木)	基礎7 「体験行動型」の教室活動 ①「標準的カリキュラム案」を活用して-1
8回	2/7(木)	実践1*「体験行動型」の教室活動 ②「標準的カリキュラム案」を活用して-2
9回	2/14(木)	実践2*「体験行動型」の教室活動 ③
10回	2/21(木)	実践3*「体験行動型」の教室活動 ④ -発表会へ向けての支援

*実践1～3：日本語教室に支援者として参加し、体験しながら支援の方法を学びます

◆AJALT 案内図

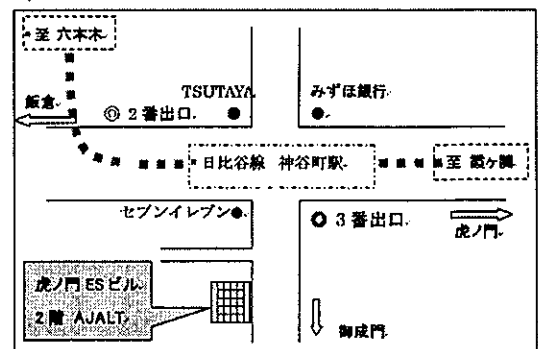
【申し込み方法】

下記 URL 『お問い合わせ』フォームに、
件名を「日本語支援研修会」として、
「お問い合わせ内容」に以下の内容をご記入の上、
お申込みください。

- ①お名前 ②性別 ③年齢 ④ご住所 ⑤ご連絡先
⑥ご所属 ⑦経験年数

<https://www.ajalt.org/contact/> 担当：小形(おがた)

樋口(ひぐち)



◆ 営団地下鉄 日比谷線「神谷町」駅徒歩1分(3番出口)

連絡先 公益社団法人 国際日本語普及協会 (AJALT)

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING

<http://www.ajalt.org> Tel: (03) 3459-9620 Fax: (03) 3459-9660

「支援者研修勉強会」参加者アンケート

「支援者研修勉強会」にご参加いただきありがとうございました。今後同様の講座を開催する際の参考にさせていただくために、アンケートにご協力ください。いただいた回答は、上記の目的以外のために使うことはありません。

団体名 _____ お名前 _____

ご連絡先 _____

E メールアドレス／電話 _____

1. 今回参加して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか。
当てはまる□にチェック1つ(☑)をお入れください。

☐ 深まったと思う ☐ まあまあ深まったと思う ☐ 深まらなかった ☐ 分からない

2. 今回参加して、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたか。

☐ 関わってみたいと思う ☐ できれば関わってみたいと思う ☐ 関わってみたいと思わない ☐ 分からない

(2. で「(できれば)関わってみたい」とお答えの方のみお答えください)

3. 今後どちらの教室で活動なさる予定、または活動なさりたいですか。

4. 今回の講座に関するコメントをご記入ください。